

氏名	岩淵 昭子
職位	名誉教授
学位	修士(経済学)
専門分野	管理会計、簿記会計、経営学
主な担当科目	簿記Ⅲ、管理会計、経済学、環境と生活
所属学会	日本会計研究学会、日本原価計算研究学会、日本経済会計学会、日本管理会計学会、日本会計教育学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	・著書『ひとりで学べる簿記入門—改訂版』(単著)ナツメ出版 平成25年11月 ・著書『震災後に考えるリスク管理とディスクロージャー』(共著)同文館出版 平成25年3月
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	・公益社団法人日本PR協会監事(平成20年4月～令和2年3月まで) ・農林水産省国立開発法人審議会臨時委員(平成27年4月～現在) ・大学コンソーシアム市川産官学プラットフォーム協議会 推進委員(平成27年4月～現在) ・市川市市政戦略会議委員(平成31年4月～令和2年3月) ・令和元年12月「親子で学ぶ お金のこと」市川市二俣小学校 金融広報中央委員会による公開授業

氏名	中溝一仁
職位	准教授
学位	修士(社会学)
専門分野	社会学・経営学
主な担当科目	基礎ゼミ、専門ゼミ、フィールドワーク、マーケティング戦略、経営学入門、経営学総論、キャリア意識の形成、キャリアデザイン、起業論
所属学会	日本社会学会、関東社会学会、国際行動学会、ドラッカー学会、余暇ツーリズム学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	①論文 高齢社会における余暇問題 —近代的な「時間」概念から— 単著 2004年3月 立教大学大学院社会学研究科年報 第12号 57頁～67頁 ②論文 高齢社会における日常的余暇活動への参加と生活の満足度について 単著 2017年3月 立教大学社会学部 応用社会学研究No.59 223頁～240頁 ③論文 余暇としての「旅」の持つ意味 —高齢者の「旅行・観光」に関する質的調査から— 単著 2018年3月 立教大学社会学部 応用社会学研究No.60 155頁～170頁 ④論文 義務化しにくい余暇としての「旅」——「旅行・観光」に関する質的調査から—— 単著 2022年3月 東京経営短期大学 『東京経営短期大学紀要』30: 51-62. ⑤論文 多様化する消費文化の問題構成——「第5回消費とくらしに関する調査」の結果をもとに共著(間々田孝夫・廣瀬毅士・藤岡真之・朝倉真粧実・中溝一仁・野尻洋平) 2022年3月 立教大学社会学部 応用社会学研究No.64 47頁～66頁 ⑥学会発表 「集团的余暇活動」と高齢社会 単独 1999年10月10日 日本社会学会大会 一般研究報告(上智大学)報告要旨p.298 ⑦学会発表 現代の余暇活動について —現状の課題と今後予想される問題について— 単独 2001年4月21日 生活経済学会 研究報告(第17回研究大会:近畿大学) ⑧学会発表 「余暇の義務化」への視点 単独 2017年6月24日 余暇ツーリズム学会 関東支部研究会 研究報告(東洋大学) ⑨学会発表 高齢アッパークラスの旅行・観光における余暇としての位置づけについて 単独 2017年10月28日 余暇ツーリズム学会 全国大会(東洋大学) ⑩学会発表 高齢者の余暇活動と参加の可能性について —高齢者団体の活動と健康体操の調査から— 単独 2017年11月5日 日本社会学会大会(第90回:東京大学)報告要旨p.544
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	- 学会活動 国際行動学会 紀要編集委員 2022年4月より現在に至る - 社会活動 静岡県美容専門学校 評議会委員 2019年1月～2020年1月 - 社会活動 静岡県静岡中央警察署 協議会委員 2019年6月～2021年5月 - 社会活動 静岡県静岡中央警察署 協議会会長 2021年6月より現在に至る - 招待講演 「人生100年時代の『新セカンドライフ』と『生き甲斐』」 松戸市男女共同参画課 ゆう松戸 2021年3月 - 招待講演 「人生100年時代の『新セカンドライフ』を楽しむ」 (定年退職後どうする? ～アクティブシニアライフのすすめ～) 松戸市シニア交流センター主催 2022年3月

氏名	谷脇聡史
職位	講師
学位	言語教育情報学修士
専門分野	応用言語学

主な担当科目	英語科目、プレゼンテーション技法、ホスピタリティ英語
所属学会	日本認知言語学会、JALT
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	研究論文:『Japanese Language Education in New Zealand』、共著、Sasakawa Fellowship Fund for Japanese Language Education、2013、 研究論文:『Cognitive linguistics approach to teaching English polysemous verbs』(修士論文)、単著、2020 上記の学会発表:『The 46th JALT Annual International Conference』 上記の刊行:『言語と言語教育をめぐって 第15巻』(論文集)、立命館大学大学院言語教育情報研究科、2022、
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	JSANZ主催『Tertiary Japanese Speech Contest 2017』委員長
氏名	衣川 功一
職位	教授
学位	修士(技術経営)
専門分野	情報学
主な担当科目	■「コンピュータリテラシー」 ■「Webコンテンツ演習」 ■「情報コミュニケーション」 ■「デジタル・デザイン」 ■「ICT概論」 ■「アプリ開発」 ■「アニメーション表現」 ■「基礎ゼミ」 ■「専門ゼミ」
所属学会	■経営情報学会 ■情報システム学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	■著書:情報システム開発入門ーシステムライフサイクルの体験的学習ー、共著、平成20年 1月25日、立出版株式会社 ■著書:情報システムデザイン:体験で学ぶシステムリフサイクルの実務:、共著、令和3年 1月20日、共立出版株式会社 ■研究論文:産業人材の確保とグローバル人材の育成単著平成27年3月日本工業大学大学院技術経営研究科「特定研究報告」(全21p) ■研究論文:産業人材の確保とグローバル人材の育成-中小の企業と大学における戦略的連携-、単著、平成27年11月、日本工業大学大学院技術経営研究科紀要「技術経営研究報告」第十巻、pp.33-53 ■研究論文:外国人留学生の就職事情の現状と課題 -就職支援活動から見た実践的研究-、単著、平成30年3月、第一工業大学研究報告紀要第30号2018,pp.88-92 ■研究論文:留学生に向けたSTEM教育の基盤構築に関する一考察 -STEM教育の構成論的育成メソッドの概観と教材の選定-、単著、平成31年3月、第一工業大学研究報告紀要第31号2019,pp.49-56 ■研究論文:DX社会で活躍するICT人材の学修カリキュラムの一考察、単著、令和3年3月、東京経営短期大学紀要第30巻,pp.165-172
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	■平成 3年12月 特定非営利活動法人 特許管理士会 (平成10年3月まで) ■平成15年11月 一般社団法人 情報サービス産業協会(JISA)日中韓OSSビジネス懇談会 ■平成27年 3月 埼玉県上里町 超小型モビリティ活用協議会委員 (平成30年3月まで) ■平成27年 8月 東京都台東区 地域連携活動-生涯学習支援(平成30年8月まで)
氏名	濱崎 統
職位	准教授
学位	学士
専門分野	比較文化
主な担当科目	ホスピタリティ論、ホテルビジネス基礎、ホテル経営論、観光ビジネス、ビジネスマナー、キャリアデザインなど
所属学会	なし
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	なし
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	レ・クレドール(メンバー)、日本コンシェルジュ協会(ホテル会員)、日本観光通訳協会(正会員外理事)

氏名	神山 直規
職位	准教授
学位	会計修士
専門分野	会計・税務会計
主な担当科目	簿記ⅠA(b)、簿記ⅠB(a)、簿記演習ⅠA(b)、簿記演習ⅠB(a)、財務諸表論Ⅰ・Ⅱ、コンピューター会計、消費税法、消費税演習
所属学会	日本会計研究学会、税務会計研究学会、日本管理会計学会、日本経営会計学会、非営利法人研究学会、中小企業会計学会、土木学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表：番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	著書 ・『USCPA集中講義 税法・ビジネスロー(第2版)』共著、中央経済社、2008年。 ・『USCPA集中講義 税法・ビジネスロー(第3版)』共著、中央経済社、2009年。 学術論文 ・「所得税における課税単位に関する考察—少子化対策を重視して—」単著、早稲田大学会計研究科修士論文、2009年。 ・「工事進行基準における所得の認識に関する一考察—ルック・バック・ルールの日本における適用可能性—」単著、『税務会計研究』税務会計研究学会、2012年。 ・「税務会計において工事進行基準を適用すべき契約の範囲に関する一考察—日本の建設投資動向と米国の判例に基づく検討—」単著、『商学研究科紀要』早稲田大学大学院商学研究科、2012年。 ・「公共工事請負契約における契約変更と工事進行基準による所得の認識—単価合意、第三者技術者及び出来高部分払方式の利点—」単著、『経営会計研究』日本経営会計学会、2013年。 ・「消費税率改正に伴う完成工事高・外注費の留意点」単著、『税務弘報』中央経済社、2014年。 ・「工事進行基準による所得の認識における工事収益総額の「見積り」に関する一考察—チューター・サリバ社対アメリカ内国歳入庁長官の判決を中心として—」単著、『税務会計研究』税務会計研究学会、2014年。 ・「工事契約における税務会計上の完成の判断と所得の認識—日米の判決に基づく比較検討—」単著、『経営会計研究』日本経営会計学会、2014年。 ・「長期請負契約における収益認識—新たな収益認識会計基準の考え方が税務に及ぼす影響—(統一論題報告収益認識基準と税務会計)」単著、『税務会計研究』税務会計研究学会、2018年。 ・「シンポジウム 収益認識基準と税務会計(統一論題報告 収益認識基準と税務会計)」共著、『税務会計研究』税務会計研究学会、2018年。
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	社団法人 竜ヶ崎青年会議所 副理事長、2001年。 龍ヶ崎市・利根町合併協議会委員、2003～2005年。 建設産業経理研究所(RIACI) 経理問題検討会議 委員、2009年～2012年。 関東経済産業局経営革新等支援機関、2012年～(現在に至る)。 早稲田大学 産業経営研究所 招聘研究員、2016年～(現在に至る)。 税務会計研究学会 統一論題報告、2018年。
氏名	前野 一夫
職位	教授
学位	工学博士
専門分野	工学(航空宇宙工学、工学一般)
主な担当科目	DXヒューマン・ソサエティ研究所長・特別教授
所属学会	日本航空宇宙学会、日本エネルギー学会、可視化情報学会、日本伝熱学会、他
研究業績 著書、研究論文、学会発表：番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	学会発表：1.「高速度カメラを利用するレーザー干渉画像CT法を用いた非定常放出衝撃波の4次元密度計測」、共著(講演発表者)、2021年度(令和3年度)衝撃波シンポジウム、2022年3月9日-11日、立命館大学琵琶湖キャンパス。セッションOS1-1(10日)、pdf・OS1-1・4頁。 2. "Uniqueness of Product Assembly line in Japan", Prof. Kazuo Maeno, Invited Lecture, National Institute of Technology, Kisarazu College, Japan, Feb.26, Sat., 7th International Workshop on Effective Engineering Education (IWEED 2022), February 25- March 4, 2022 (Online).
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	講演：大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム2022年度第1回共同FD研修会、2022年7月2日(土)「高校と大学の情報教育～効果的な情報教育プログラムの構築を目指して～」、講演題目「文系短大における複数コース大学科の ICT/DX 導入教育と全学展開へ向けて ～短大における DX ヒューマン・ソサエティ研究所の役割～」 委員など：千葉市環境審議会委員(副委員長)、同地球温暖化対策実行委員会委員(副委員長)

氏名	高橋 有弥
職位	教授
学位	修士(MBA)
専門分野	経営学
主な担当科目	ホスピタリティ論、消費者行動論、経営戦略論
所属学会	なし
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	なし
学会活動及び社会活動 (講演、講師派遣、委員など)	千葉県立浦安高等学校探求ゼミ講師、大学コンソーシアム市川(推進委員、共同IR委員)
氏名	安井良彰
職位	准教授
学位	博士(理学)
専門分野	素粒子論
主な担当科目	コンピュータリテラシ I・II 数学基礎 プログラミング基礎 基礎ゼミナール 専門ゼミナール
所属学会	日本物理学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	学術論文 1.「Numerical calculation of the full two-loop electroweak corrections to muon (g-2)」 共著 Phys. Rev. D 99, 073004 (2019) 2018年10月30日 2.「Automatic calculation of two-loop ELWK corrections to the muon (g-2)」 共著 J. Phys.: Conf. Ser. 920 2017年9月 3.「Full $O(\alpha)$ electroweak radiative corrections to $e+e\rightarrow e+e-\gamma$ at the ILC with GRACE-Loop」 共著 Physics Letters B, Vol. 740 2015年1月 4.「Full $O(\alpha)$ electroweak corrections to $e^+e^-\rightarrow t\bar{t}\gamma$ with GRACE-loop」 共著 The European Physical Journal C 73 2013年4月 5.「素粒子反応計算の自動化—GRACEシステムの現状—」 共著 日本物理学会誌 62(5) 320-328 2007年5月5日 6.「Electroweak corrections to Higgs production through ZZ fusion at the linear collider」 共著 PHYSICS LETTERS B 600(1-2) 65-76 2004年10月 7.「Full $O(\alpha)$ electroweak and $O(\alpha_s)$ corrections to $e+e^-\rightarrow t\bar{t}H$」 共著 Physics Letters, Section B: Nuclear, Elementary Particle and High-Energy Physics 571(3-4) 163-172 2003年10月9日 8.「Five-parton amplitudes with two-quark and two-photon at Next-to-Leading Order」 単著 PHYSICAL REVIEW D 66(9) 2002年3月18日 9.「A technique for loop calculations in non-Abelian gauge theories - with application to five gluon amplitude」 単著 Phys.Rev. D61 (2000) 094502 1999年11月24日
学会活動及び社会活動 (講演、講師派遣、委員など)	委員等 1.4th Computational Particle Physics Workshop 組織委員 2016年10月, Hayama, Japan. 2.日本学術振興会2国間交流事業日仏共同研究メンバー 2006年4月~2008年3月 3.LCWS2007国際会議 組織委員 2007年5月 Hamburg, Germany 講演等 LCWS2002国際会議公演 題目「Measurement of the Higgs self-coupling at JLC」開催地: Jeju, Korea 2002年8月

氏名	國井裕
職位	講師
学位	博士(教育学)
専門分野	比較文化 比較教育 外国語教育 道德教育
主な担当科目	比較文化論 韓国語 日本文化概論
所属学会	日本比較文化学会, 日本道德教育学会, 韓国日本言語文化学会, 韓国道德倫理科教育学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	[著書] 『日韓道德教科書にみる 人間像の比較研究』人文社、2012年、単著(ISBN: 9788997255672) 『実戦ビジネス日本語』図書出版チェックサラン、2012年、単著 (ISBN: 9788989506942) 『日本文化と日本語会話』図書出版チェックサラン、2014年、単著(ISBN: 9791185440095) 『日本語ビジネス文書作成の秘訣』図書出版チェックサラン、2018年、単著(ISBN: 9791187801306) [学術論文] 「한국과 일본의 초・중학교 도덕 교과서에 나타난 인물상 비교연구」『비교교육연구』제22권 4호, pp.51-73, 한국비교교육학회, 2012년, 단저 「日韓道德教育にみる愛国心に関する比較研究」『比較文化研究』106号, pp.37-48、日本比較文化学会、2013年、単著 「リアルタイム型オンライン授業において日本語教師に求められる資質・能力」『日本言語文化』27号 pp.69-93、韓国日本言語文化学会 2014年9月、単著 「韓国道德教育教科書にみる日本像」『比較文化研究』124号, pp.63-72、日本比較文化学会、2016年12月、単著 「한·중·일 도덕 교과서에 나타난 애국심 비교 연구」『일어일문학』96권2호, 한국일어일학회, pp.552-570. 2인공저 「A quantitative analysis of moral exemplars presented in moral education textbooks in Korea and Japan」『Asia Pacific Journal of Education』vol.38.n1pp.62-77、共著 その他 学術論文 17篇
学会活動及び社会活動 (講演、講師派遣、委員など)	韓国 京畿道 南楊州市 生涯学習センター 講師(2011～2018年) 韓国日本言語文化学会 海外理事(2012～2014年) ソウル大学 アジア言語文明学部 日本語キャンプ 講師(2017年・2018年) DENSO CUP SOCCER 第12回大学日韓定期戦 記者会見および指導者セミナー 逐次通訳(2015年) DENSO CUP SOCCER 第14回大学日韓定期戦 記者会見および指導者セミナー 逐次通訳(2017年)